

地域資源を生かし、活力ある学校を築くための 学校運営協議会の在り方 —「学校運営協議会」の設置を通して—

平成30年度 地域とともにある学校づくり
推進フォーラム(香川会場)

平成30年11月16日
三豊市立仁尾中学校



香川県三豊市仁尾町



校区の概要

平成18年に7町が合併し三豊市へ

三豊市立仁尾中学校:生徒数=160名
小学校2校、幼稚園2園、保育所1所



仁尾町 人口:約5900人
世帯数:約2350世帯

【歴史】

江戸時代には、港町として栄え、酒・酢・醤油などの醸造権が許され、大正時代には塩田が開かれた。
戦後は、曾根地区を中心にみかん栽培で活況を呈し、昭和152年に仁尾太陽博が開催され全国的に知られた。
平成8年に七宝トンネルが開通し、アクセスの短縮ははかられたが、近隣の町と同じように、**少子高齢化は確実に進んでおり、地域再生が**進まれている。
まちの活性化のために、「仁尾まつり」や「八潮人形まつり」に取り組んでいる。最近、**若者の活躍**がある。

父母ヶ浜

ちちぶ

三豊市国際交流局ホームページより



南米のウユニ塩湖か?! 「行ってみたい夕日絶景ランキング全国1位」じゃらん



SNS・テレビ放映の威力! 風のない、干潮時がベスト。日の入り前後30分がオススメ!
「ちちぶの会」を中心に、地元の人々が自然を守る活動を続けてきた。毎月第1日曜日に清掃活動。
*最近、駐車場・トイレが整備⇒ぜひ、一度 [仁尾町父母ヶ浜へ](#)

コミュニティ・スクール導入のこれまでの経緯

- 平成26・27年度の2年間、
文部科学省「コミュニティ・スクール導入等促進事業」を活用し、導入に向けた準備を進める。
- 平成28年度に三豊市教育委員会より、正式に「コミュニティ・スクール」としての指定を受け、取り組んでいる。(3年目)

「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の成果と課題

1【成果】

- 推進委員会の発足 (15名)
(学校評議員3名、地域代表2名、有識者、保護者、校区小学校長2名、幼稚園長2名、保育所長、中学校職員3名)
- 地域住民アンケート、地域資源の再確認、ふるさと学習、地域ボランティア
- 「地域に役立ちたい」と考える生徒の増加

2【課題】

- 学校運営協議会の正式スタートに向けて、会長・委員の人選
- 地域ボランティアが増加し成果もあるが、学校への依頼が増加
- コミュニティ・スクール導入で **めざすものが学校や地域での共有が不十分**

学校運営協議会の発足にあたって

- 「CS導入等促進事業」時の校長が退職し、新校長が赴任
これまでの取組の課題を踏まえて、これからのビジョンを考える。



◎ 立ち上げにあたって、配慮したこと

- 学校評議員を土台にし、会長は、学校教育に理解の高い方を
- 子供の成長を願い、**学校と地域が協力**して、取り組めるものに
- 組織(運営協議会・支援本部)は、できるだけ**実動**できるものに

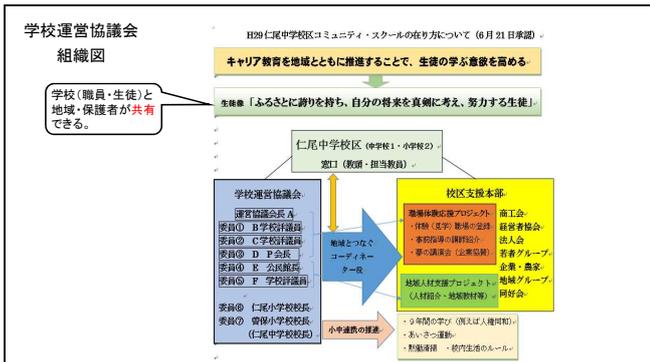
第1回学校運営協議会(平成29年1月)

◎ これからのビジョンについて、熟議をし、方向性を決定

- ① 仁尾の子供たちにどう育て欲しいか。
 - ・ ふるさとを大切に思い、地域の良さ(自然・歴史・先輩)を知って欲しい。
 - ・ 将来、地元で就職や生活は難しい面もあるが、可能性を感じて欲しい。
 - ・ 地域の人材となることも期待したい。
- ② 生徒のふるさと意識とコミュニケーション能力育成の方向で進めたい。

平成29年度第1回学校運営協議会(6月)

- ① 学校運営協議会の組織についてお願いしたこと
 - 学校の応援団になって欲しい。
 - 学校課題の改善を地域とともに取り組みたい。
 - ・ 基礎学力の向上→自分の将来を真剣に考える場の設定
 - ・ コミュニケーション能力育成→職場体験・ボランティア活動
 - 実動できる組織に
 - 委員さんに、地域とのコーディネーターを兼務して欲しい。
- ② 地域の協力を得て、キャリア教育に取り組みたい。



③ 「この組織や方向性で、実動できるか」意見を頂いた。

- ・ いろいろな団体があるが、市に合併して町独自のものが少ない。
- ・ 仁尾町経営者協議会(地元企業や事業所)は、独自で活動し会員も30名近い。声をかければ、なんとかなるのではないか。
- ・ 地元で頑張っている企業や農家もあるので、人材もいる。
- ・ 力になれることを学校と一緒にやっていきたい。

受け継ぐものと改善するもの

- ① 受け継ぐもの
 - ・ 職場体験(事前訪問半日と4日間)は、継続し充実させる。
 - ・ 黙働清掃は、小中で取り組みたい。
- ② 改善するもの
 - ・ CS導入促進事業で始めた「親子防災訓練」は小学校と隔年で
 - ・ 仁尾町人権教育保幼小中合同発表会は、2会場で
 - ・ 地域ボランティアの参加について、参加方法や回数について検討

取り組んできたこと

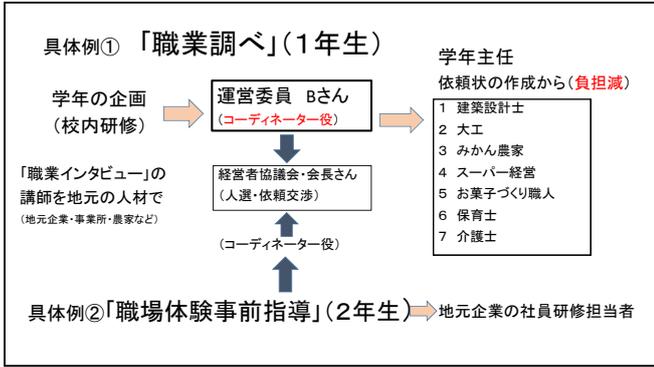
- 1 コミュニティ・スクールの三つの視点から整理
 - * 山口県CS推進から学ぶ
- ① 学校運営の質の向上(基本方針を承認。改善意見を述べる。)
- ② 学校支援活動の充実(地域の子供たちを育てる視点で参加。)
- ③ 地域貢献(地域を通して、生徒の社会性を高める場とする。)

(1)学校運営の質の向上

- ① 学校運営協議会での承認・協議事項
 - ・ 学校の経営方針の承認
 - ・ CSの進め方について
 - ・ 学校経営の評価
 - ・ CSの取組報告と次年度の計画
- ② 協議した内容
 - ・ 職場体験や職業インタビューの成果、夢講演会の講師
 - ・ 部活動休養日について(週休日に1日、平常日に1日の2日間)
 - ・ 教職員の人事異動についての意見は出ていない。

(2)学校支援活動の充実

- ① 職場体験応援プロジェクト
 - ・ 職業インタビュー(1年生)
 - ・ 職場体験事前指導(2年生)
 - ・ 職場体験週間(事前訪問半日+4日間)
 - ・ 職場体験受け入れのお願いを運営協議会会長と一緒に
- ② 夢・講演会 ← 地元事業所の理解と協力で(企業協賛)
- ③ 授業のサポートをする地域人材



保幼小中で連携して、保護者向けの啓発資料を作成

子育ての具体的な姿を示す。



(5) 広報活動 PTA新聞を全戸配布

地域に宣言

目指す生徒像

生徒・事業所の感想

地域への感謝



玄関に、CS掲示版



(6) 教職員の意識改革

「地域とともにある学校づくり」のために

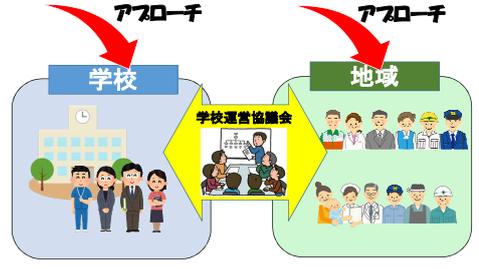
アプローチ

アプローチ

学校

地域

学校運営協議会



「当事者意識」を持つためには・・・



- CSの説明
- 地域との連携活動の見直し



- CSの経過報告
- キャリア教育の見直しと実践計画作成



- キャリア教育実践の振り返り

キャリア教育を中心とした取組を通して・・・

教職員の声

地域人の声

- 教師だけでやっていくには限界がある。地域の人が教育活動に携わることに意味がある。
- 今後一部の方以外の地域の人も関りが持てたら…広がってほしいなと思う。
- 学校と地域とのつながりもできるし、学校の負担も減るといったことが分かった。

- 学校に協力できることは協力したい。
- 学校運営協議会が地域の声を学校に伝えるよい機会になる。
- 地域の人と何かする体験は大事。地域とのつながりが地域に帰ってこようという気持ちにさせる。
- 職場体験ではあいさつや感謝の気持ちを学ばせたい。

導入の成果

(1) 生徒の成長(平成30年度全国学力・学習状況調査の結果より:中3)

- 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心」がありますか。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。
- 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。

↓
生徒の自己有用感やコミュニケーション能力の向上

(2) 地域の変容

- まじめに活動する生徒に接することで、学校への信頼が高まった。(学校への地域からの苦情は、ほとんど無い。)
- 地域の子供たちを育てる視点での励ましの声かけが増えた。(感謝や激励の言葉を受けることが生徒の意欲につながっている。)

課題とこれからの取組

- ・ 地域全体を巻き込んだ活動になっていない面がある。
 - ・ 保護者の活動をどう仕組むのか。
 - ・ 運営協議会や支援組織の拡充をどうするか。
 - ・ 将来は、小中合同の組織も考えられる。
- ⇒①広報活動
- ②行事や組織の見直し(負担増にならないようにしながら)
 - ③地域・学校(生徒・教職員)・保護者それぞれの**当事者意識**

3年間の取組で感じたこと

- 学校に協力したいと思っている地域の方は多数いる。
- CSは、学校や地域にとって、大きな可能性がある。



知恵を出し合って、自分達の地域にあった**内容と方法**を
地域とともに考え、少しずつ進める。

ご静聴ありがとうございました。